

2021年度第4回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2021年9月16日（木）18:00～20:15

会議の方法 WEB 会議（Zoom）

出席者；（理事）

馬場益弘 会長、中澤信夫 副会長、中村隆夫 副会長、大村雅一 常務理事、
望月宣武 常務理事、平松隆 理事、橘田佳音利 理事、菊池邦仁 理事、新田肇 理事、
安田大助 理事、宇都光伸 理事、岩瀬善貞 理事

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、三浦信郎 レース委員会外洋小委員会委員長
日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長
船澤泰隆 国際委員会外洋小委員会委員長、金子純代 キールボート強化委員長、
服部好彦 ジャパンカップ委員会委員長、坂谷定生 参与、作田智恵子 艇登録 WG 長
鈴木一行 オリピック外洋小委員会委員

鈴木保夫 外洋事務局長、
寺澤寿一 JSAF 事務局長、
小山悟 外洋艇登録事務局長

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で 18：00 より開始した。

・馬場会長挨拶

9月4日の理事会で河野会長の後を引き継ぎ、河野会長の任期を務めていくことになったので宜しくお願いします。

就任に当たり 2つの目標を立てた、一つ目はパリオリンピックでメダルを獲得するためにセーリングの裾野を広げていきたい。

もう一つは障がい者スポーツに力を入れていきたい。

コロナ禍ではあるがヨット界を輝きのあるようにしたい。

中澤副会長が外洋常任委員長に就任したので、中澤副会長を中心に外洋系を盛り立てて頂きたい。

なお、中村隆夫さんが副会長に、望月さんがディンギー系の常務理事として就任したので報告させて頂く。

・中澤副会長挨拶

馬場副会長が会長になり、新たな JSAF がスタートした。

外洋常任委員会委員長として、尽力していきますので皆様の協力をお願いします。

議事

①JSAF 表彰への推薦

大村常務より、アジアからの参加者で初めてバンでグローブを完走した白石康次郎氏を推薦したい、との提案があり、出席者全員が賛成した。

②組織改正 12月理事会協議事項提案

大村：通信委員会と技術委員会を正式に設置したい。

通信委員会は外洋安全委員会から独立して設置したい。

この提案に対して以下の意見が出された。

鈴木（一）：計測委員会にある技術委員会を独立させるとメンバーが分散するので、デメリットも考慮して欲しい。

望月：設置するときは委員長を決めて議論して欲しい。

大村：それも含めて検討する。

宇都：委員会の活動の内容を決めて検討して欲しい。

大村：内容を明示するので1か月程度を目途に検討していきたい。

③団体長会議の議事と資料確認

大村常務より団体長会議の議題と以下の提出予定資料が説明された。

- ・艇登録関係
- ・フラッグリレー
- ・2024 パリ五輪と世界選手権
- ・サバイバルトレーニング
- ・各委員会からの報告
 - レースマネジメント委員会
 - ルール外洋規則小委員会
 - 計測委員会

④ジャパンカップについて

ジャパンカップ開催について服部ジャパンカップ委員長より資料に基づき以下の説明があった。

服部：2018年より4年間開催されていないジャパンカップを2022年開催することを目指している。

開催案として、場所は相模湾、時期は9月に2週にわたり開催、泊地は一か所を前提としない。

運営は実績のあるクラブへ委託、クラスはIRC、ORC、HPR、ワンデザインの

SAMURAI や Melges20 等のクラスとし、総合成績は出さずに各クラスに JAPAN CUP を授与する。

構想としては、レース出場の意思のあるチームのボースン系を入れて準備する。女子枠を設ける。まずは開催を目指し、その後はニーズに合わせて検討。

開催場所は水域持ち回りの見直しをする。

この提案に以下の意見が出された。

平松：服部委員長個人またはジャパンカップ委員会としてのたたき台か？

2 回に分けての開催は出場者側の負担にならないか、参加者側からの意見か？

服部：参加者側から考えて、平日を外して休日を中心に考えた。

平松：係留場所の分散を可としているが、過去に分散についてはレース委員会から却下されているが承知しているか？

服部：承知しているが、現実的に無理なので 1 箇所に集中しないことを考えた。

平松：ワンデザインの Melges20 や J24 は外洋選手権なので如何なものかと考え、賛成しかねる。

日下部：ジャパンカップが 4 年間開催されなかった理由はどの様に認識されているか？

服部：その時の参加艇の意見では、HPR と IRC が一緒ではレースとしては楽しくなかったと考えられる。今回はそれに対する策としてこうした。

船澤：クラスを跨いでチームで参加し、チーム毎の表彰をして勝ったチームが開催する案はどうか？

服部：検討したい。

大村：初めての提案なので、1 か月程度の間にもメールで意見を出してもらい、それを委員会で検討して、12 月に開催される常任委員会で検討して頂きたい。

その他

理事からの提案

①岩瀬理事からの提案

岩瀬理事より、予め提出されている以下の提案（素案）が資料に基づき説明された。

- ・JSAF ディンギー・小型艇オープンレース
- ・JSAF 認知度アップ企画
- ・JSAF ヨットレンタル制度
- ・ヨット・ボートでの日本周遊支援企画（ブルーポール設置）
- ・ローカルクラブレースへの JSAF レースアドバイザー派遣制度

これに対して以下の意見が出された。

平松：JSAF のロゴはスポンサー契約の関係上、外に出さないようにしているが、事

業開発委員会において検討したいので、是非委員になって頂き検討していきたい。
日下部：セールボートとモーターボートを区別してブルーポールに取り組んで頂きたい。

他の委員からは、国に提案していく必要がある等の意見が出された。

中澤：過去にキールボートパークの発想を提案したことがあり、宮城で Y23 のマッチレースを行っている。イベントをやることで継続できればと考える。

岩瀬：JSAF でレンタルボートのリストを作れないか。

大村：ローカルクラブへのアドバイザーは大事と思うので、まずはローカルクラブにアプローチするための講習会等でサポートできればと考える。

望月：この提案を外洋常任委員会としてどう受け止めるかを考えるべき。

②橋田理事・マッチングについて

橋田：大村常務が作ったマッチングシステムのバージョンアップの要請を受けたのでマッチングの条件や内容等について検討していきたい。

まずは検討チームを作ってみなさんの意見を頂きたい。

船澤：ミドルボートの協会でも学生が卒業する前にイベントを開催して取り込むことを考えている。

望月：掲示板そのもののブラッシュアップも必要だが、マーケティング戦略やもっと大きな面から検討することが必要。

大村：橋田さんを中心に協力して頂きたい。

・その他

安田：外洋内海において会員から艇登録制度について、予算と規則についての質問があったが事務局より回答をもらったので、外洋内海に展開している。

大村：外洋艇セールナンバー登録制度については、クラブ、セールメーカー、保険代理店等の協力を得る等、色々な形で PR をしていきたい。

坂谷参与から関東で開催されたレースにおいてのコロナの感染例について質問があり、平松理事からその概要、大村理事からは JSAF とは直接には関係がないことが説明された。

鈴木事務局長より、9月3日の常任委員会においてのパラオレースの会計の透明性についての発言に対して、新田理事より資料を添付しての説明があったことが報告された。

中澤副会長からの閉会の挨拶で 20 時 15 分に閉会となった。

以上